



ブロックチェーン業界 普及が限定的な主な理由

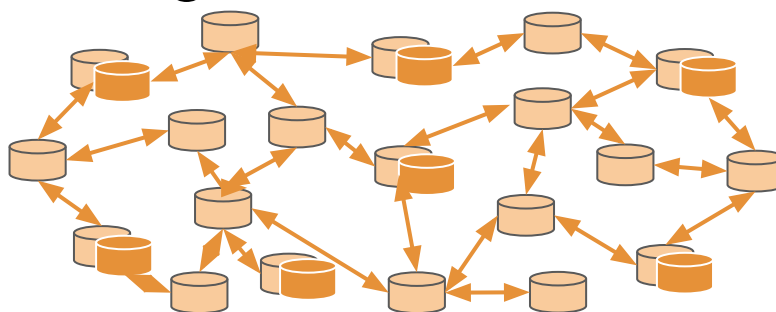
ブロックチェーン 技術進化の系譜

① Bitcoin (PoW)



② コンソーシアム
チェーン (BFT)

① PoW (Proof of Work)



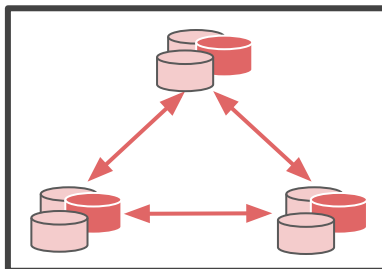
Bitcoinがオープンなブロックチェーンとして誕生
母数が不明でも合意可能(チェーン参加者が検証)

- オープン性、透明性
- × ガバナンス、ファイナリティ

- 署名ネットワーク
→ ブロック生成を承認
- 台帳ネットワーク
→ データを共有

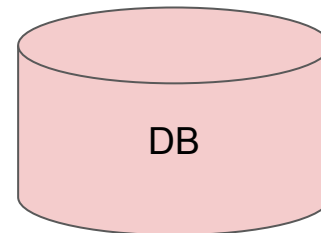
ガバナンス: 一定の管理者権限
ファイナリティ: 決済等最終確定

② BFT (Byzantine Fault Tolerance)



エンタープライズ用として母数を限定
プライベート/コンソーシアム型のチェーン

- × オープン性、透明性
- ガバナンス、ファイナリティ



クローズドなブロックチェーン
であれば、既存
DBでも代替できてしまう



Tapyrusの狙い

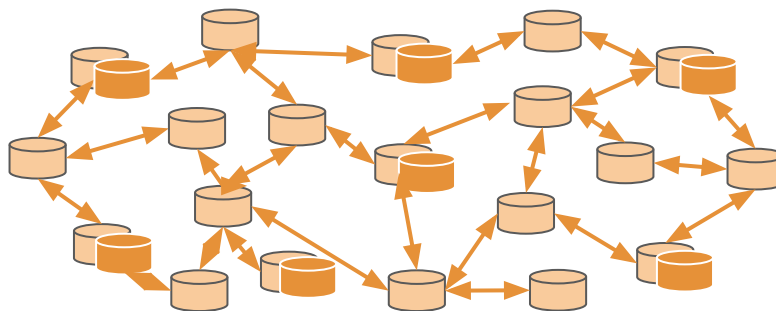
ブロックチェーン 技術進化の系譜

① Bitcoin (PoW)

② コンソーシアム
チェーン (BFT)

③ Tapyrus (PoA)

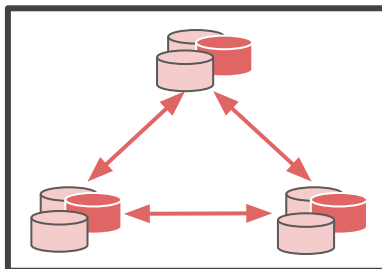
① PoW (Proof of Work)



Bitcoinがオープンなブロックチェーンとして誕生
母数が不明でも合意可能(チェーン参加者が検証)

- オープン性、透明性
- × ガバナンス、ファイナリティ

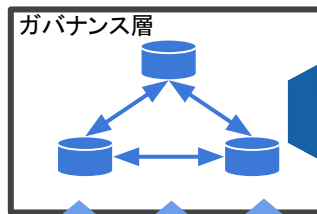
② BFT (Byzantine Fault Tolerance)



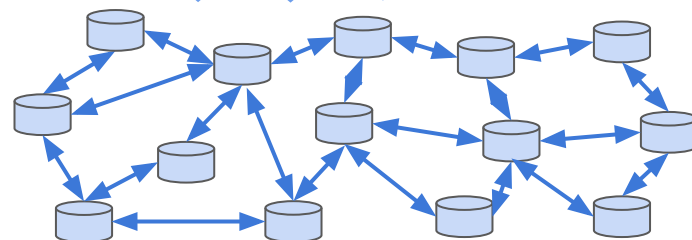
エンタープライズ用として母数を限定
プライベートコンソーシアム型のチェーン

- × オープン性、透明性
- ガバナンス、ファイナリティ

③ PoA (Proof of Authority)



レジャー層



PoWとBFTのいいとこ取りをしたハイブリッド型
ガバナンス層を限定、レジャー層をオープン

- オープン性、透明性
- ガバナンス、ファイナリティ

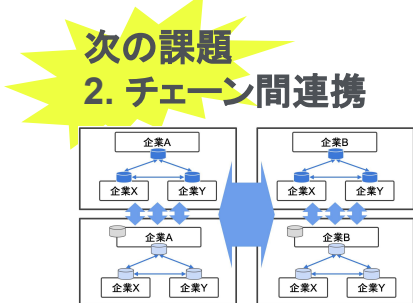
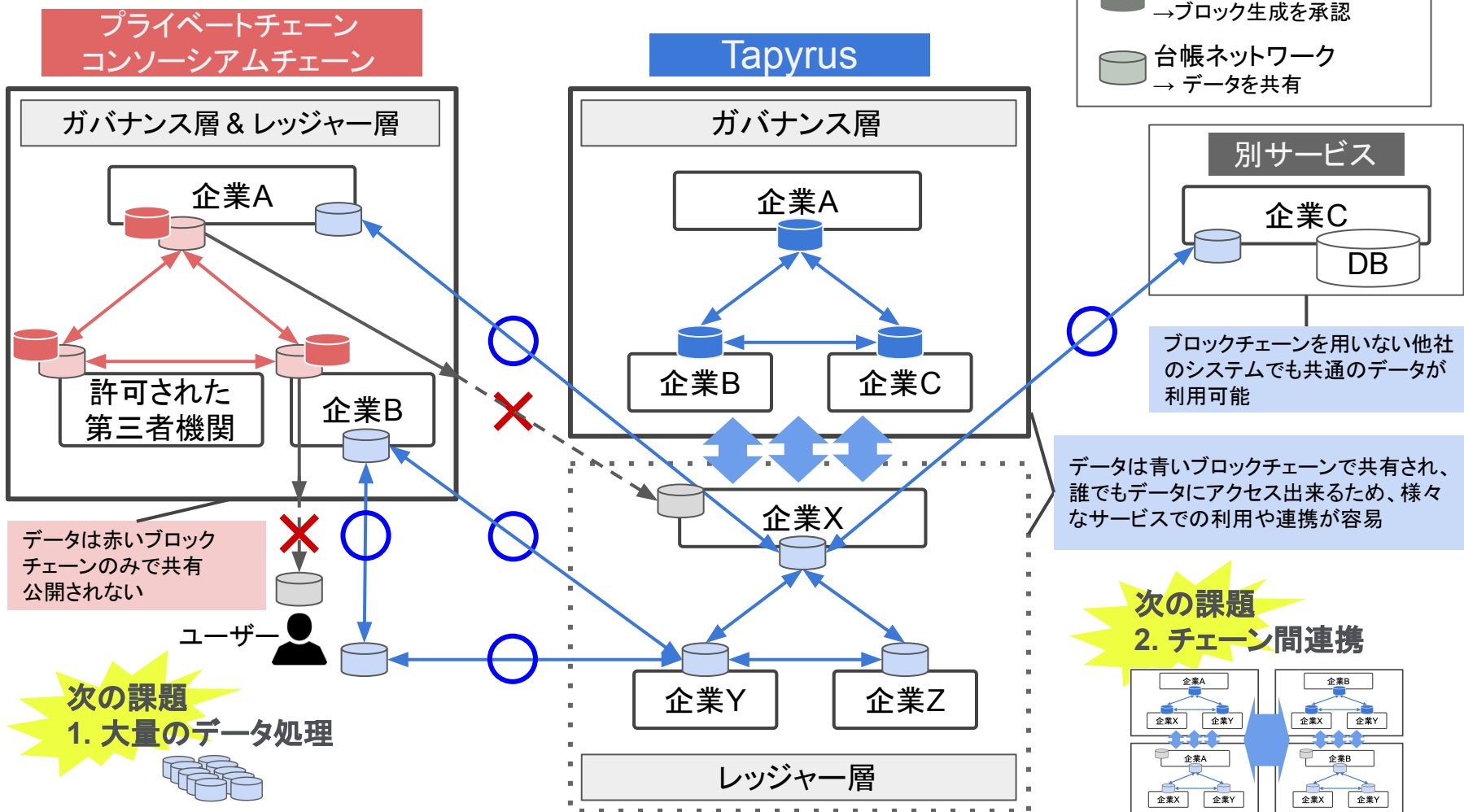
- 署名ネットワーク
→ ブロック生成を承認
- 台帳ネットワーク
→ データを共有



Tapyrusの特徴【ガバナンスとオープン性の両立】

ハイブリッド型を社会へ適用する開発基盤とサービス

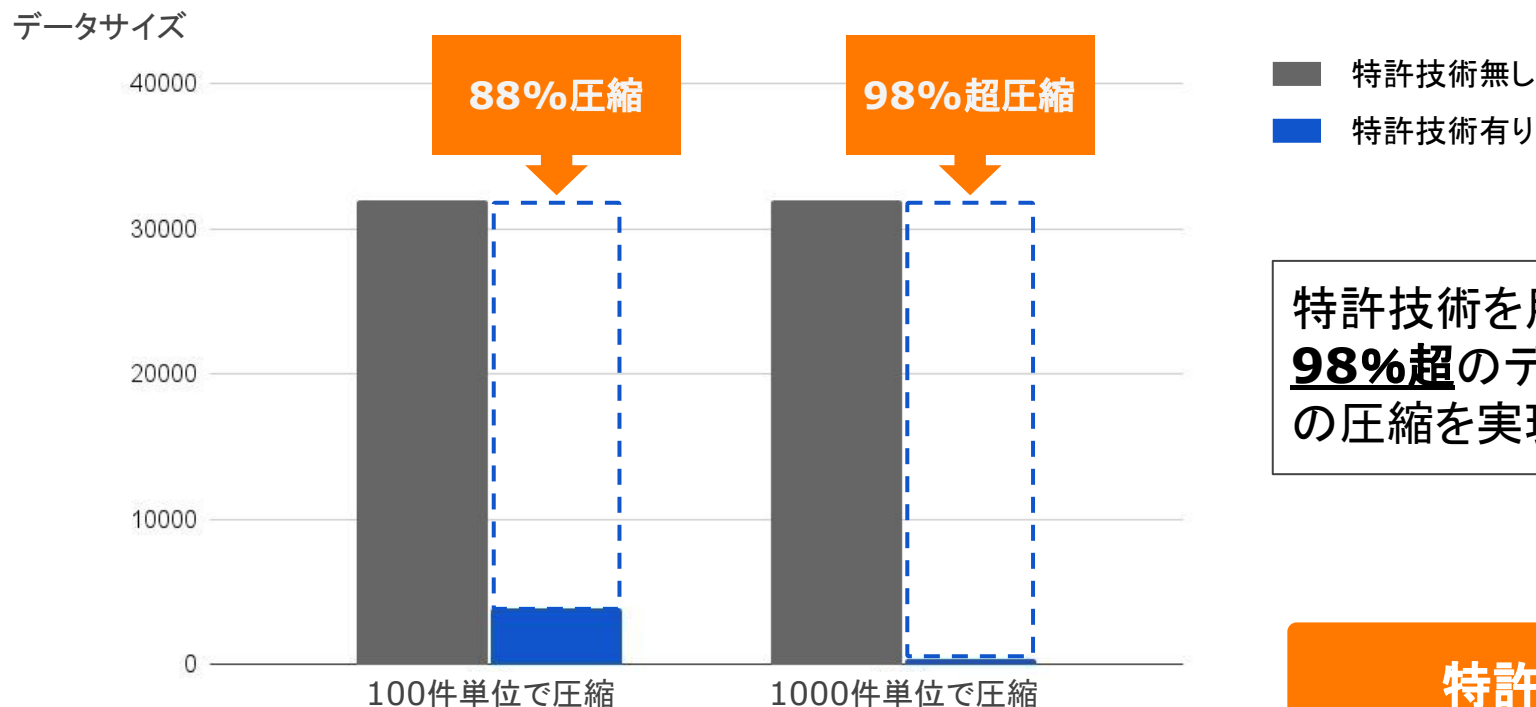
2層構造で実現する、ビジネスユースへの適応とオープン性の両立





Tapyrusの特徴【特許技術でデータサイズの圧縮】

ブロックチェーンの課題である大量データの取り扱いを解決するべく、データサイズを圧縮する技術を開発し特許を取得



特許技術を用いる事で
98%超のデータサイズの
圧縮を実現 ※弊社試算

特許取得
(特許第6943393号)

- ※ 格納するデータのサイズのみで比較(ヘッダー等の定型データは含めない)
- ※ 1件のデータサイズは32Bytesと仮定
- ※ 1000件のデータに対するの比較



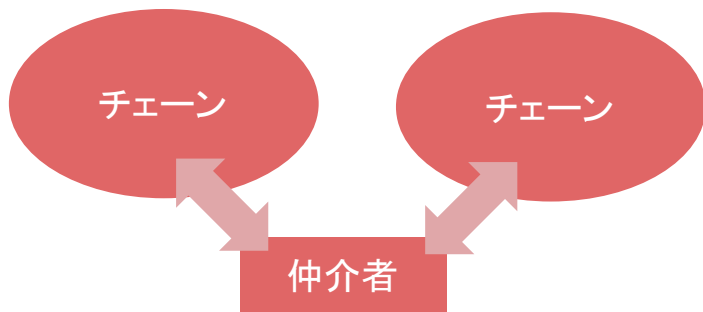
Tapyrusの特徴【チェーン間連携】

システム間連携、チェーン間連携を可能に

これまでの ブロックチェーン実装



① 既存のシステムを 代替する形 でブロックチェーン実装を行うため、データ連携ができない

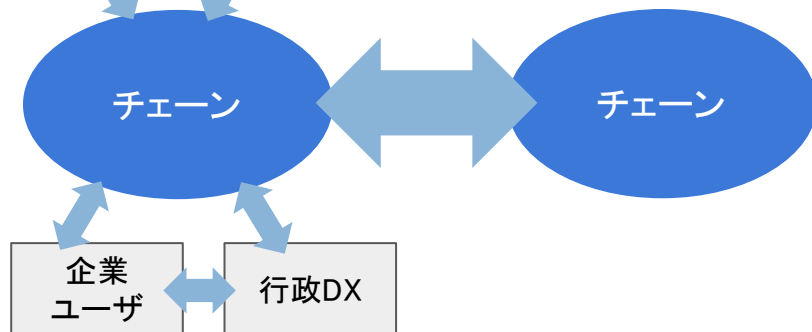


② チェーン間連携も、仲介者がトークンのやり取りを仲介しているだけで、システム連携・データ連携はできていない

Tapyrus を使った実装



① 新たに構築するアプリのみでなく、既存システムとも繋いで、安全な形で様々なデータ連携が可能!



② 二重使用を防ぎつつ、仲介者を介さないチェーン間のデータの連携が可能!

特許取得
(特許第6980288号)



Tapyrusの特徴 まとめ



**ガバナンスと
オープン性の両立**

1. Tapyrus 独自の2層構造

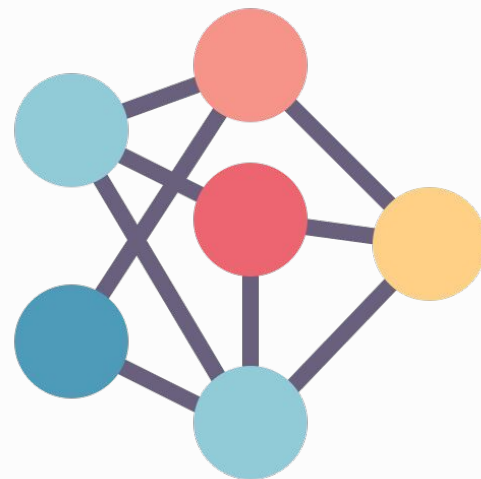
オープン性を維持したまま、適切な管理者設定が可能に！



スケーラビリティ

2. 特許技術で大量 のデータ処理！

Chaintope 独自の特許技術！



チェーン間連携

3. 安全なデータ 連携基盤を構築！

バラバラなシステムを連携！